

Vol.32

〈発行日〉
令和6年1月1日

松下ゆきよし



県政活動レポート

発行責任者／愛媛県議会議員 松下行吉 連絡先／〒791-2141 伊予郡砥部町岩谷口135 TEL (089) 969-3605

新年おめでとぅございませう
今年もよろしくお願ひします

とべ動物園の新しい仲間たちを紹介します。チンパンジーの「スカイ」は、とても大きな耳をしていて、とべ動物園の人気者です。ビントロングの「茶々丸」は、とべ動物園では2頭目の赤ちゃんです。人工哺育で育ちました。ミミナガヤギの「アツキ」。お父さんの「アート」とお母さん「ハツキ」を合わせた名前です。お母さんの袋からそつと顔を出しているのは、アカカ



▲チンパンジーの「スカイ」♂ R4年12月30日生まれ
(R5年9月撮影)



▲アカカンガルーの「フミ」♀ R5年4月30日顔出し
(R5年5月撮影)



▲ミナミアリクイの「こころ」♀
R5年6月30日生まれ
お母さんの背中におんぶされて育ちます。
(R5年8月撮影)

▲ビントロングの「茶々丸」♂ R5年1月27日生まれ
(R5年2月撮影)



▲ミナガヤギの「アツキ」♀
R5年3月25日生まれ
(R5年5月撮影)



▲フサオマザルの「もりこ」
性別不明 R5年6月26日生まれ
(R5年10月撮影)

(写真提供…愛媛県立とべ動物園)

這へ笑へ 二つになるぞ けさからは

小林一茶

ンガルーの「フミ」です。ミナミアリクイの「こころ」は、介添え哺乳をしていましたが、今ではすっかり元気になり、順調に育っています。フサオマザルの「もろこし」。お母さんは子育てのベテラン「ナスビ」。子どもはみんな野菜の名前がつけられています。
皆さん、とべ動物園で待つてます。

愛媛県議会定例会（令和5年9月）の概要

令和5年9月議会は、10月4日、物価高騰対策や新型コロナウイルスの「5類」移行に伴う経済活性化対策などを柱とした一般会計313億9,002万円（追加補正を含む）などを原案可決して閉会しました。

可決議案の内訳は、理事者提出の条例5、予算2、人事3、その他5と、議員提出の意見書3、計18件です。また、令和4年度決算認定4件は継続審査となっています。そのほか公用車事故の専決処分など報告7件がありました。

なお、健康保険証廃止の中止を求める請願など3件は不採択としました。可決した議案の概要は、次のとおりです。

1 条例

愛媛県核燃料税の更新や、えひめ森林公園管理条例の改正など5件の上程があり、原案どおり可決しました。

▼県核燃料税

県核燃料税は昭和54（1979）年1月に創設して以来、5年毎に更新を続けており、今回で9回目の更新になります。課税対象は価額割、出力割、核燃料物質重量割があり、今回は出力割、核燃料物質重量割を値上げしています。施行は本年1月から、施行後は福井県などと並んで全国最高水準の課税率となります。5年間の税収見込みは102億円。現行より約20億円の増収となります。

▼知事及び副知事の給料の減額に関する条例

県民文化会館改修工事を巡る訴訟敗訴を受け、中村知事と田中副知事の11月分の給料をそれぞれ10%減額。

2 補正予算

一般会計313億9,002万円の増額補正で、エネルギー価格・物価高騰対策やアフターコロナを見据えた経

済活性化策、防災・減災対策を柱にしています。

▼エネルギー価格・物価高騰対策では、低所得世帯への支援のほか、中小企業の収益力改善の後押しをするため融資枠拡充などに222億857万円を用意しました。

▼防災・減災対策には42億3,693万円を計上、県単独による避難道路、砂防設備などハード整備を進めます。

▼10月末から週7往復に増便している松山—ソウル線の更なる利用拡大に向け3,055万円、11月上旬に週3往復の定期路線を新設した松山—釜山線の利用促進事業に1億399万円を計上しています。

概要は図表1のとおりです。

3 人事

【副知事】

浜里要氏（44歳）の就任に同意。任期は4年間。浜里氏は前副知事八矢拓氏の総務省復帰に伴い、7月に総務省から県政策推進統括部長に着任していました。

【県教育委員会委員】

- ①竹本公三氏（61歳）の後任として北須賀逸雄氏（66歳）の新任に同意。
- ②宇都宮美由氏（54歳）の後任として畠山千愛氏（51歳）の新任に同意。（任期はそれぞれ4年間）

4 意見書

- 次の意見書を採択しました。
- ①生涯を通じた国民皆歯科健診の実現を求める意見書
 - ②私学助成の充実強化等に関する意見書



▲旧第二別館の解体が終わり整地された建設予定地（令和5年11月撮影）

【図表1】9月補正予算の概要

1 エネルギー価格・物価高騰への対応	229億4,366万円
(1) 低所得世帯への支援	6億2,821万円
(2) 中小企業等への支援	222億 857万円
(3) 農林水産事業者への支援	1億 688万円
2 海外展開の推進などアフターコロナを見据えた対応	5億8,219万円
(1) 海外展開の推進	1億2,259万円
(2) 特別支援学校等スクールバス安全対策事業費	4億5,960万円
3 防災・減災対策の推進	42億3,693万円
4 当面する課題への対応	35億 648万円
(1) DXを支えるデジタル人材の育成	4,300万円
(2) 物流の2024年問題への対応	8,034万円
(3) その他	33億4,455万円
県民文化会館南側県有地活用検討事業費	2,559万円
大規模産業用地確保推進事業費	1,300万円
スリランカ農業人材活用促進事業費	126万円
財政基盤強化積立金	28億9,749万円
釜山線新規就航関係追加予算	1億2,076万円
(1) 釜山線利用促進事業費	1億 399万円
(2) 松山空港国際化支援事業費	1,677万円

(1) 県土木建設事業などの地元負担額

5 その他

③ 持続可能な農業・農村の実現と食料安全保障の強化を求める意見書
 なお、ALPS処理水の海洋放出を中止する意見書は否決しました。

(3) 県庁第二別館新築電気設備工事の請負契約

請負額 66億8,030万円(税込み)

請負人 熊谷・二宮・二神共同企業体

その他 鉄鋼造、地上12階・地下1階、延べ14,255.36㎡

② 県庁第二別館新築工事の請負契約

請負額 13億6,400万円(税込み)

請負人 四国通建・日電・近藤電設

共同企業体

その他 受変電・発電・証明・弱電・防災設備

6 報告

※第二別館は、令和8(2026)年3月完成見込み

① 財政健全化法に基づく令和4年度の財政健全化判断比率等(3件)

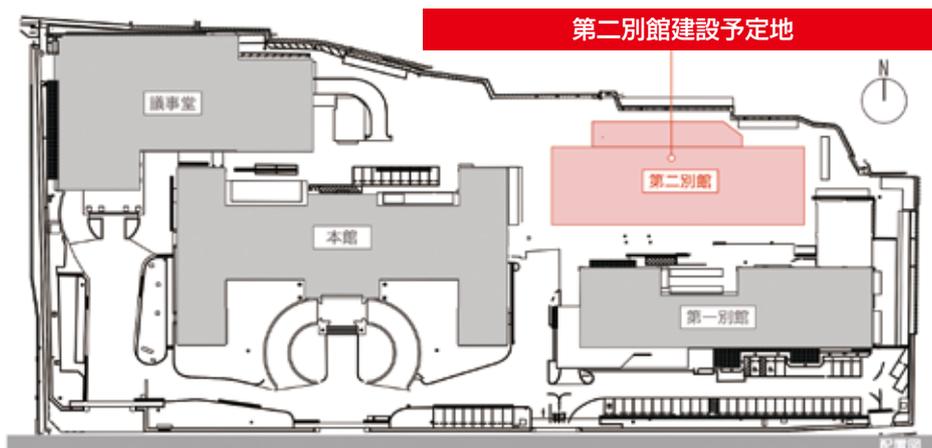
② 県立医療技術大学の令和4年度の業務実績評価と、中間目標期間に関する実績評価

③ 食の安全安心に関して講じた施策の実施状況

④ 観光振興基本計画に基づき講じた施策の実施状況

⑤ 専決処分報告

自動車交通事故(1件)の補償総額(16万3,730円)



愛媛県議会定例会（令和5年12月）の概要

11月29日開会した12月定例会は、12月15日に17日間の日程を終えました。可決議案は、条例4、補正予算8、人事2、決議1、その他35です。その他の内26件が指定管理者（注1）の更新、4件が継続審査となっていた令和4年度決算認定です。

なお、辺野古基地建設強硬に反対する意見書の提出を求める請願ほか2件の請願を不採択としました。

（注1）指定管理者制度において、地方公共団体から体育館や図書館など住民の福祉を増進する目的で設置した施設の管理を任される団体のこと。条例で定められた選任手続きを経て、議会の議決により決定されます。

1 条例

人事委員会の勧告に基づき職員給与を改定するための条例改正や、こどもの城管理条例の改正などです。こどもの城管理条例は、自動運転電

動カートの利用料金（1回300円）の追加、ジップライン利用料（2,500円↓2,700円）の改正をしました。

2 補正予算

総合経済対策の裏付けとなる国補正予算が成立したことを受けて追加提案があり、12月議会に提案された補正予算は、一般会計431億5,496万円、特別会計8,051万円、企業会計7億4,290万円、計439億7,837万円と昨年に引き続き大きな規模となりました。なお、このうち一般職員と特別職の給与改



▲本会議開会前の議場。議長席の横には、紅マドンナが飾られています。

定に伴う増額は30億363万円（図表3）です。

▼当面措置が必要な経費

県美術館を核とした文化振興のため、収蔵品のデジタル化による情報発信の強化（599万円）に取り組みます。そのほか県試験研究機関の検査機器購入（6,350万円）などです。

▼エネルギー価格・物価高騰への対応

LPGガス料金高騰緊急対策支援事業（10億1,966万円）や「えひめの食応援事業（5億5,304万円）」などです。えひめの食応援事業では、物価高騰に苦しむ生活者の負担軽減と農林水産物の需要喚起につなげるため、県内の農産物直売所で使用できるプレミアム付き商品券を発行します。6千円を5千円で販売する内容で、44万セット用意します。

▼防災・減災対策等の推進

国の「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」等を活用し、次の様な事業を行います。
・橋りょう補修等の老朽化対策や道



路の路面補強等（22億1,390万円）

・土砂災害防止施設の整備（58億7,810万円）

・通学路の交通安全対策や自転車利用環境等の整備（3億7,158万円）
・盛土規制法の施行に伴う基礎調査（6,015万円）

【図表2】12月補正予算の概要

当初に提案された補正予算（一般会計 26億4,764万円 企業会計 5億4,568万円）

1 当面措置が必要な経費	1億8,969万円
2 人事委員会勧告に基づく給与改定	30億 363万円

追加提案の補正予算（総合経済対策）

（一般会計 405億 732万円 特別会計 8,051万円 企業会計 1億 9,722万円）

1 エネルギー価格・物価高騰への対応	43億6,646万円
(1) 生活者への支援	15億7,270万円
(2) 医療・福祉施設への支援	5億4,101万円
(3) 中小企業等への支援	13億 337万円
(4) 農林水産事業者への支援	9億4,933万円
2 防災・減災対策等の推進	339億2,677万円
3 物流の2024年問題など重要課題への対応	24億9,187万円
4 その他	22億6,457万円

・ため池や農道等の農林水産施設の整備（47億9,910万円）
 ・花粉発生源対策としてスギ人工林の伐採や花粉の少ない苗木への植え替え（6,574万円）

▼物流の2024年問題など重要課題への対応
 荷役作業効率化に取り組む荷主を支援するほか、9月補正予算で創設した営業用トラック事業者向け補助

（8千万円）を拡充（1億382万円）。輸送の効率化や人材確保に関する経費を、上限200万円、下限50万円で2分の1補助します。

▼その他

松山空港国際線の再開・増便が進む中、運航に不可欠なグランドハンドリング（注2）等の担い手確保に向け、業務内容や採用情報を発信します。また、県債管理基金積立金（22億6,247万円）を計上しました。

（注2）航空機の機体や旅客、貨物・燃料の取扱い等に関する地上支援業務。

3 人事

【県土地収用委員会委員】

①井伊敏郎氏（71歳）の後

任として稲本隆壽氏（72歳）の新任に同意。
 ②小川佳和氏（52歳）の再任に同意。（任期はそれぞれ3年間）

4 決議

議員提案の「イスラエル・パレスチナ情勢の早期鎮静化及び人道状況の改善を求める決議」を全会一位で議決しました。

5 その他

(1)令和6年度の当せん金付証券（宝くじ）の発売限度額の決定
 129億9,600万円（5年度…132億900万円）

(2)指定管理者の指定

県の施設を運営管理する指定管理者を決定。期間は令和6年4月から5年間。「とべもり」関連は、次のとおりです。

▼えひめこどもの城とえひめ森林公園 伊予鉄総合企画（株）

▼とべ動物園 愛媛県動物園協会

▼総合運動公園 TOBEMORI

【図表3】12月補正予算 給与改定経費

1 一般職 29億 9,723万円
 （一般会計 24億 5,167万円 企業会計 5億 4,556万円）

区分	職員数	予算額
一般会計	2万1,383人	24億 5,167万円
一般職員	4,228人	4億 5,010万円
警察職員	2,879人	3億 7,166万円
学校職員	1万 1,540人	12億 9,580万円
会計年度任用職員	2,736人	3億 3,411万円
企業会計	2,844人	5億 4,556万円
一般職員	2,117人	3億 6,699万円
会計年度任用職員	727人	1億 7,857万円

2 特別職 640万円（一般会計 628万円 企業会計 12万円）

SEED（構成員は、エンジニアネットワーク、協和道路、河原学園、愛媛新聞社）

(3)県立医療大学の定款変更（教育研究審議会委員定数…21↓22人）

(4)土木建設工事等の負担金額変更

(5)継続審査となっていた令和4年度決算4件の認定

(6)県庁第二別館新築空調設備工事の請負契約

請負額 10億100万円（税込み）

請負人 重松・日機・北四国共同

企業体

第35回全国健康福祉祭 えひめ大会

県内20市町を会場に29種目のスポーツ・文化交流大会

高齢者の健康と福祉の祭典、第35回全国健康福祉祭えひめ大会「愛称・ねんりんピック 愛顔のえひめ2023」が、10月28日から31日の4日間、県内20市町を会場に開催されました。愛媛での開催は初めてです。28日には松山市上野町の県総合



▲【総合開会式】各都道府県などの選手団が笑顔で入場行進し、最後に愛媛勢35人が登場。観客席からひととき大きな拍手が送られました。



▲久万高原町菅生のラグビー場で開催された、グラウンド・ゴルフ交流大会。開始式では、大会委員長として始球式に参加しました（写真右から2人目）。

運動公園に、故寛仁親王の長女彬子さまを迎えて総合開会式を実施。選手や役員計約1万7千人が参加しました。

私が県協会の会長を務めるグラウ

▼グラウンド・ゴルフ交流大会会場。好天に恵まれ素晴らしい大会でした。



ンド・ゴルフも、久万高原町菅生のラグビー場で29日と30日の二日間交流試合を実施。全国から約360人の選手を迎えて、県協会も久万高原町とともに大会運営にあたりました。なお、愛媛は男性陣が健闘し、個人の部で準優勝と第三位に入りました。

また、伊予郡内では、砥部町千足の町陶街道ゆとり公園（体育館）でスポーツウエルネス吹矢が、松前町の松前公園（体育館）で囲碁が開催されています。

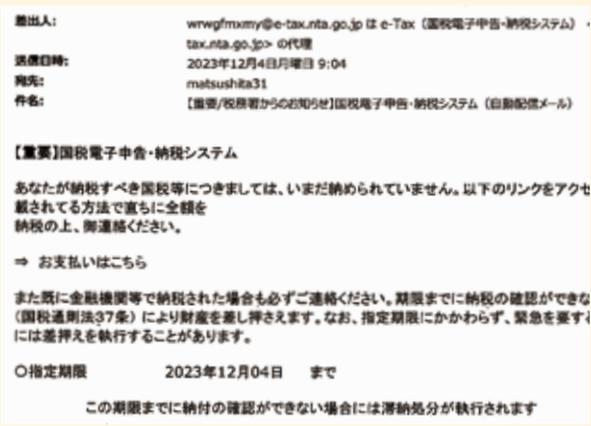


▲陶街道ゆとり公園（体育館）でのスポーツウエルネス吹矢交流大会。スポーツウエルネス吹矢は、円形的（中心から7点、5点、3点、1点）をめがけて1ラウンド5本の矢を吹き、得点を競うスポーツです。



▲令和6年度ねんりんピックのグラウンド・ゴルフ交流大会開は、グラウンド・ゴルフ発祥の地、鳥取県泊村（現在は湯梨浜町）で開催されます。大会旗を、宮脇鳥取県グラウンド・ゴルフ協会会長（写真左）に引き継ぎました。

▼朝、メールの確認をしていると「e-Tax（国税電子申告・納税システム）



▲送り付けられた税務署を語る詐欺メール（印刷しています）

【重要】税務署からのお知らせ「重要／税務署からのお知らせ」電子申告・納税システム）

届いた方へ」と注意喚起がされており、税務署をかたる詐欺メールが出回っているようでした。ちなみに件のメールを読み直してみると、下線のように日本語としておかしいところがありますし、冷静に考えれば、確定申告もしており滞納などあるはずはないのです。便利になった反面、何かと落とし穴の多い世の中になってしまいました。皆さん、気をつけましょう

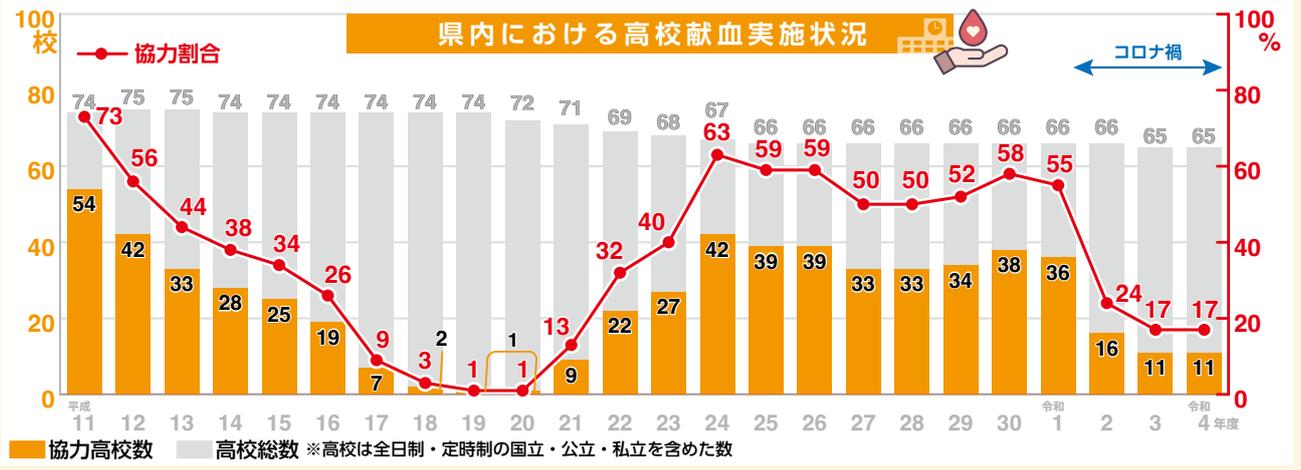
▼11月10日血小板成分献血に挑戦しました。70歳を超えると献血できなくなると聞いています。期限まで数年。少しでも協力できればと思います、時間がかかるのを覚悟で大街道献血ルームに行ってきました。これで令和5年中に115回に到達です



▶大街道献血ルームで成分献血

献血が中止（注3）になったこともあるようです。コロナ禍で再び低下しましたが、令和4（2022）年には本県で献血運動推進全国大会が開催され、献血の大切さが伝わったと思います。皆さんご協力ください。

（注3）献血には全血献血（400mlと200ml）と、成分献血（血漿と血小板血）の4種類があります。血液は同じ血液型であっても、一人一人微妙に異なっています。そのため輸血を受ける場合、血液提供者が多くなるほど副作用（発熱、発疹など）の確率が高くなります。日赤が献血バスでの200ml全血献血を中止し、400ml成分献血を推奨する理由はそこにあります。なお、大街道献血ルームでは、200ml全血献血も出来ます。



私の本棚

晴走雨読

せいそううどく

定本 黒部の山賊 アルプスの怪

著者：伊藤 正一 出版：山と溪谷社



昨年11月NHK(BS4K)の「につぼん百名山」で、「北アルプス黒部源流〜日本最後の秘境へ〜」が放送されました。番組では40年ぶりに再開した「伊藤新道」を、道を作った故・伊藤正一(注4)さんの長男・圭さんの案内でたどっています。「伊藤新道」は、長野県大町市から北アルプス最奥に位置する黒部源流への最短ルートとして、また、三俣山荘を建設するための歩荷道として正一さんが開拓。昭和31(1956)年秋に完成しましたが、その後のダム建設などによる自然環境の変化で昭和58(1983)年を境に通行できなくなっていました。今回、圭さんの努力で再び開通しました。番組の主人公は、黒部の自然というより開拓者「伊藤正一の心」だったようにも思えます。

(ここに紹介する「定本 黒部の山賊」は、その正一さんの著書で昭和39(1964)年に出版された初版に歴史的資料を追加、出版後の怪談「遭難者のお礼参り」や、著者による黒部源流への70

年間のまなざし「定本刊行にあたって」を追加掲載して、平成26(2014)年に刊行されたものです。放送を機に読み返してみると、終戦直後の黒部源流域の自然と、そこを自分の庭のように暮らす山賊たち(実は職業者ですが)の姿が生き生きと描かれており、改めて名著と呼ばれるのにふさわしい本だと思いました。

登場する山賊は4人。頭目的存在の遠山富士弥。富士弥の従兄弟の遠山林平。岩魚釣りの名人です。小男だが健脚で、常人なら4日かかる山道を1日で歩いてしまう鬼窪善一郎。彼は数キロ先にいる熊をよく発見しました。富士弥から狼を伝授された倉繁勝太郎は、熊獲りの名手です。彼らは北アルプスの厳しい自然の中で、熊を狩り、岩魚を釣り、ウサギやカモシカを捕らえて、実に豊かに生活しています。著者によると、彼らは息を吐くように嘘をつきます。しかし、そう分かっているにもかかわらず、彼らが語る狸やカワウソに化かされる話、かつて遭難したこの世ならぬ者たちの声のことなど様々な「アルプスの怪」は、まんざら嘘とも思えなくなってきました。山の好きな方には必読の一冊です。

(注4)伊藤正一(いとうしょういち)：大正12(1923)年、長野県松本市生まれ。昭和21(1946)年、三俣蓮華小屋(現在の三俣山荘)、水晶小屋を譲り受け、「山賊たち」の協力を得て、湯俣山荘、雲ノ平山荘を次々と建設する。日本勤労者山岳連盟創設者として、大衆登山発展のために尽くす。平成28(2016)年没。93歳。



愛媛県議会議員

松下行吉 まつした ゆきよし

〒791-2141 愛媛県伊予郡砥部町岩谷口 135
 TEL 089-969-3605 FAX 089-969-3606
 Email : matsushita31@iyo.ne.jp

<http://www.iyo.ne.jp/matsushita31/>



このレポートは環境に配慮した FSC®森林認証紙を使用しています